

27年度八千代こども親善大使が バンコク都を訪問

国際平和作文コンクールの入選者から選ばれた、八千代こども親善大使一行が1月20日から27日までの7泊8日の日程で、タイ王国バンコク都を訪問しました。表敬訪問や学校での文化体験の様子などを紹介します。

八千代こども親善大使

今年度のこども親善大使は、市内の小学5年生と中学2年生を対象に実施した国際平和作文コンクールの応募者3,530人の中から選ばれた、小学生6人と中学生4人です。八千代市では平成元年度から毎年こども親善大使をバンコク都へ派遣しており、今回で27回目となります。

授業やホームステイなどを体験 日本の遊びも紹介しました

親善大使一行は、バンコク都知事や都議会議長への表敬訪問、現地の学校訪問、歴代バンコクこども親善大使との交流会など、訪れる先々で盛大な歓迎を受けました。ワット・ランブーン学校訪問では、日本とタイの国旗を手にした1,000人を超える全校児童がお出迎え。授業体験や意見交流会を通してタイの学校の様子や文化を学び、現地の子どもたちと親睦を深めました。また、練習を重ねた八千代ふるさと音頭や日本の遊びを披露し、日本の文化を伝えました。



◀現地の子どもたちからタイの伝統楽器の弾き方を教わりました

ワット・ランブーン学校の子どもたちとの交流

3泊4日のホームステイでは家族の一員として迎えられ、タイの日常生活に触れる貴重な体験をしました。最終日にはさよならパーティーが催され、お世話になったホストファミリーやバンコク都職員の方々に感謝の気持ちを込めて歌を披露。互いに別れを惜しみました。



▲学校の先生から編み物を教わりました



▲浴衣を着て書道などの日本文化を紹介

都議会議長表敬訪問

▶大使が環境などに関する質問をしました



コップクン・カー
ขอขอบคุณ
(ありがとうございます)
※男性の場合は、コップクン・クラブ



▲バンコク議会議場で議員の方々と

親善大使代表

八千代松陰中学校2年
塚本 さくら



この派遣を通して、私は国の文化や言語が異なっても伝えようとする気持ちがあれば心は通じることができることを強く学びました。行く前に自分で考えていたよりもずっと外国語で話すことは難しく、大変でしたが、頑張って身振りや表情で伝えようとする事で自分の気持ちを伝えることができました。難しくても自分の限界を決めず挑戦することで自分の見えなかった世界が広がります。私はこれからも挑戦し続け、今まで見えなかったものを見える人になりたいです。

工場見学・遺跡見学



▲小久保製氷冷蔵(株)のタイ工場を訪問しました



▲アユタヤ周辺の寺院や遺跡などを見学

さよならパーティー



▲ホストファミリーと別れを惜しみました

お問い合わせは
指導課 481-0301 へ

広告